



登壇者紹介

コーディネーター 宇野 則子 NPO法人ファーストペンギンネットワーク 代表理事




鹿嶋市出身。茨城県警察官を経て公文式教室を開設。KUMON（公文式）の理念「可能性の追求」の指導実現のために子どもたちを観察しながら現状を見極める事に注力。「読み聞かせ・読書の効用」と家庭・学校・社会での関わり方が心身の成長過程でもたらす影響について考えるようになる。プライベートでは夫の単身赴任によるワンオペ育児、子どもの度重なる入院や通院による病児保育の課題など子育てと仕事の両立に直面する多くの試練を経験。「自分のように悩み苦勞している女性はたくさんいるはず、そんな女性が住みよいまちづくりの一助になれば」と2016年9月NPO法人ファーストペンギンネットワークを設立する。日本アングーマネージメント協会キッズインストラクター、認知症サポーター、鹿嶋市認定スポーツコーディネーターなど多方面に活躍。

パネリスト 桑井 優子 Home to Work 代表




茨城県出身。環境カウンセラー／1級家事セラピスト／整理収納アドバイザー
社会人、大学生、高校生男女3人の母。独立行政法人で役員秘書として勤務。退職後、不登校児を預かり暮らした経験から、心理学を学ぶ。2012年より共同主宰している「親を楽しむサロン」の他、「暮らし、夫婦、子ども、仕事、こころ みんなに笑顔」をキャッチフレーズに、家事・子育てに関する各種講演、講座、ワークショップを全国各地で開催。活動の中で、家族のチーム力を上げれば仕事力も伸びることを確信し、企業型ファミリービルディング研修を始める。

パネリスト 光畑 由佳 モーハウス 代表取締役 NPO法人子連れスタイル推進 協会代表理事




倉敷出身。美術企画、建築関係の編集者を経て、1997年自身の電車内での授乳体験をきっかけに、産後の新しいライフスタイルを提案する「モーハウス」の活動を開始。社会と子育てをつなぐ環境づくりのため、授乳服の存在を広めてきた。自社で実践する「子連れワークスタイル」は古くて新しいワークスタイルとして国内外から注目され、女性のチャレンジ賞など受賞歴多数。ネパールでの女性の仕事の創出、乳がんを含むユニバーサルデザインブラの開発等に取り組んでいる。政府関係の有識者会議委員ほか、2014年、2016年に開催された「APEC女性と経済フォーラム」で日本代表の一人としてスピーカーを務める。茨城県ユニセフ協会理事。茨城大学社会連携センター顧問。筑波大学大学院非常勤講師。東京大学大学院学際情報学府 客員研究員。三児の母。

パネリスト 綾田 典子 地元ママ代表




鹿嶋市出身。小学3年と年長の2人の娘、夫、1匹の犬と暮らす。ヨガインストラクターとして活動するほか親戚の家業手伝いなど時間に追われる毎日の中で、家事と育児の両立に努める。昨年度、県私立幼稚園認定こども園PTA連合会にて、中央ブロック担当。認定こども園こじかのP連委員長として、多くの幼稚園が認定こども園に変わり、共働きが増え変化していくこの時に、園も保護者もどのようにより良く変わっていくべきか、実際に現場で何が起きているかを知る。また、一生懸命なお母さん方と出会い、意見が飛び交い、気づき、新たな試みをする、とても大きなパワーを感じる。大人が協力しながら、改善していこうとする前向きな姿は子供たちにもきっと伝わるはず、子供の将来の為にどこに住むか自由を選択できる時代に、鹿嶋市としても選ばれるように変化していくときなのではないかと思います。

パネリスト 岡田 淳 地元パパ代表



鹿嶋市生まれ、鹿嶋市育ちの45歳。小学5年の息子と小学2年の娘の二児の父。夫婦共働きで、仕事に育児に奮闘中…。大学時代はバックパッカーで世界中を放浪し、卒業後は、精密機械メーカーへ入社 セールスエンジニアとして7年間、東京でサラリーマン生活をおくりました。30歳を節目に地元鹿嶋へ帰って独立、起業。やがて結婚、二児の父となり、現在、仕事はもちろんの事、子育て、教育、環境、まちづくりなど、様々な市民活動やボランティアに関わりながら、次の世代の子どもたちのため、ふるさと鹿嶋のため、自分の知識と経験で少しでも市民と地域のお役に立てればと、日々活動しています！活動のモットーは、“ひとが輝けば、まちが輝く”

パネリスト 野口 ゆかり 行政 鹿嶋市健康福祉部長



昭和62年大野村役場に入庁後、長きに渡り保健師として母子保健活動や健康指導をはじめとした保健衛生業務に携わるほか、高齢福祉、児童福祉に従事。鹿嶋市保健センター長、こども福祉課長、健康福祉部次長を歴任し、平成30年、鹿嶋市で初の女性部長として健康福祉部長兼福祉事務所に登用され現在に至る。プライベートでは、髪に寝ぐせをつけながらの3人の子育てを経験し、現在は夫、娘夫婦と孫の5人家族。仕事と子育てをする中で、家族はもちろんたくさんのお仲間や先輩ママ、友人に支えられ、泣いて怒って笑っての子育てで人間としての未熟さを痛感。子育てを通して学んだことはとても大きく、行政として支援していく中で様々な人と出会い多様な価値観や人生観に触れる中で、その人に寄り添った支援をしていくことを心がけている。

【展示】共創(協働)のまちづくり事業市民提案制度の実績、(団体展示)NPO法人かしま遊休地活用クラブ・鹿嶋神の道運営委員会・鹿嶋緑を愛する会・NPO法人あっとホームたかまつ・NPO法人ファーストペンギンネットワーク(その他)消費生活センター/女性の活躍推進 など